

この写真は、衆議院選挙が行われた2月上旬の日曜日の東京の街角を写した一枚です。選挙という社会の大きな節目の日に、空からは静かに雪が降り続き、東京でも珍しく積雪が見られました。都内でおよそ5センチほど雪が積もるといえるのは決して頻繁ではなく、まさに久しぶりの「東京の雪景色」となりました。

私の住む文京区小石川でも、道路や歩道の縁が白く覆われ、普段は見慣れているはずの街並みが一変しました。ただ雪が積もっただけでなく、この日は寒さも際立っていました。今日の東京の最高気温はわずか+0.5℃で、あと少し低ければ東京では非常に稀な「真冬日」になっていたところです。

積雪は、都市の風景を劇的に変えます。普段なら車や人で賑わう道も静まり返り、白い雪が音を吸い込んで、街全体が別世界のように感じられます。東京でありながら、まるで雪国の町を歩いているかのような錯覚を覚える瞬間でした。選挙の日の記憶とともに、この特別な冬の景色が心に残ります。

